

**高等学校等における
オンライン国際交流の事例**
～姉妹校等以外の学校との国際交流の事例



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

海外の高校との提携による取組み【青森県立青森商業高等学校】

これまで本校では、商業教育を生かし青森県をビジネスの観点から国際的に発信することのできる人財を育成するため、同じ商業教育を学ぶ台湾の高校生と「商品開発と流通」に関する市場調査や青森県のPR活動・交流等を実施してきた。しかし、新型コロナウイルス感染症により、台湾に渡航し、現地にて協働学習及び協働作業ができないことから、これまでの取組みの成果や今後の方向性等について公開Web会議を実施した。

【プログラムの内容】

- (1) 開発商品のテストマーケティングについて（青森商業高校）
- (2) 商品パッケージ及び開発商品試食について（台北市立松山高級商業家事職業学校）

【工夫した点】

- ・交流校である、台北市立松山高級商業家事職業学校との調整を、株式会社MakeMi i 外崎真由美氏に依頼。
- ・両校に通訳を配置。
- ・商品開発協力会社である、株式会社味の加久の屋もWeb上で参加。

【今後の課題】

- ・今後のWeb会議等における、校内Wifi環境整備
- ・現地高校生との継続した取組みが必要



【経緯】

2018（平成30）年10月	2018年度笹森儀助基金活用事業～台湾とのインアウトバウンド観光を考える～海外研修に生徒6名参加。台北市立松山高級商業家事職業学校との交流を実施。青森県知事トップセールス現地見学。
2019（令和元）年11月	2019年度笹森儀助基金活用事業「AOMORIと世界をビジネスで繋ぐ高校生チャレンジ(台湾編)」海外研修に生徒6名参加。商品開発をした商品のテストマーケティング等を実施。
2019（令和元）年12月	交流校である台北市立松山高級商業家事職業学校生徒2名が本校に来校し、商品開発について意見交換を実施。
2020（令和2）年12月	県教育委員会事業である令和2年度グローバル社会を主体的に生き抜く人財育成事業「青森・台湾間の高校生協働学習プログラム」を活用し、台湾交流事業公開Web会議を実施。

他機関との連携による取組み【山形県 九里学園高等学校】

グローバルクラスメイト（Kizuna Across Cultures主催）による取組みで、半年間にわたり、SNS(Schoology)を使用してアメリカニューヨークにあるClarkstown High Schoolと交流を行った。交流の一環として、11月14日（土）にオンライン会議アプリZoomを活用し、交流会を行った。交流内容はアイスブレイキングから始まり、自己紹介や質疑応答などを少人数のグループ（ブレイクアウトセッション）を活用して行った。約1時間の交流を英語と日本語2つの言語を活用して行った。

【工夫した点】

参加した相手校の生徒全員と交流できるように、5分でメンバーを変えながら交流を行った。またファシリテーターとして、両校教師がグループに入り、会話が発生するような問いかけをした。



【今後の課題】

単発での開催になってしまったため、継続的に開催できるように工夫する必要がある。しかし時差の影響もあるため、youtubeなど動画をオンラインで共有できるシステムを使いながらの交流も視野に入れて活動する必要がある。動画を使ったSNSであるFlipGlidというアプリの使用も検討していく必要がある。



【経緯】

2017(平成29)年4月	グローバルクラスメイト初参加
2020(令和2)年9月	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、11月に計画していたOmiyageプロジェクト（お互いが手作りのプレゼントを贈り合うプロジェクト）が中止が決定。
2020(令和2)年10月	オンラインで現地校の教師と打ち合わせを行い、交流内容の検討。及び参加生徒の募集
2020(令和2)年11月	現地の高校生と交流。アイスブレイキングと自国文化についてディスカッションを行った。

海外の高校との提携による取組み 【山形県 学校法人羽黒学園 羽黒高等学校】

2018年と同様、インドネシアのチカル高校の生徒が来日する予定が中止となり、2020年8月～12月に、本校英会話部の生徒が8回オンラインのグループミーティングと自宅でも使用できるSNSで、お互いの文化の違いについて学び合い、母国の文化の再発見をする機会を設けた。

【プログラムの内容】

- ①生徒がそれぞれ紹介したい文化について選び、英語でプレゼンテーションを行った。
- ②お互いの文化を学んだ後、本校とチカル高校の混合のグループを作り、お互いの文化の特徴を融合させた新たな文化を作り、英語でプレゼンテーションを行った。

【工夫した点】

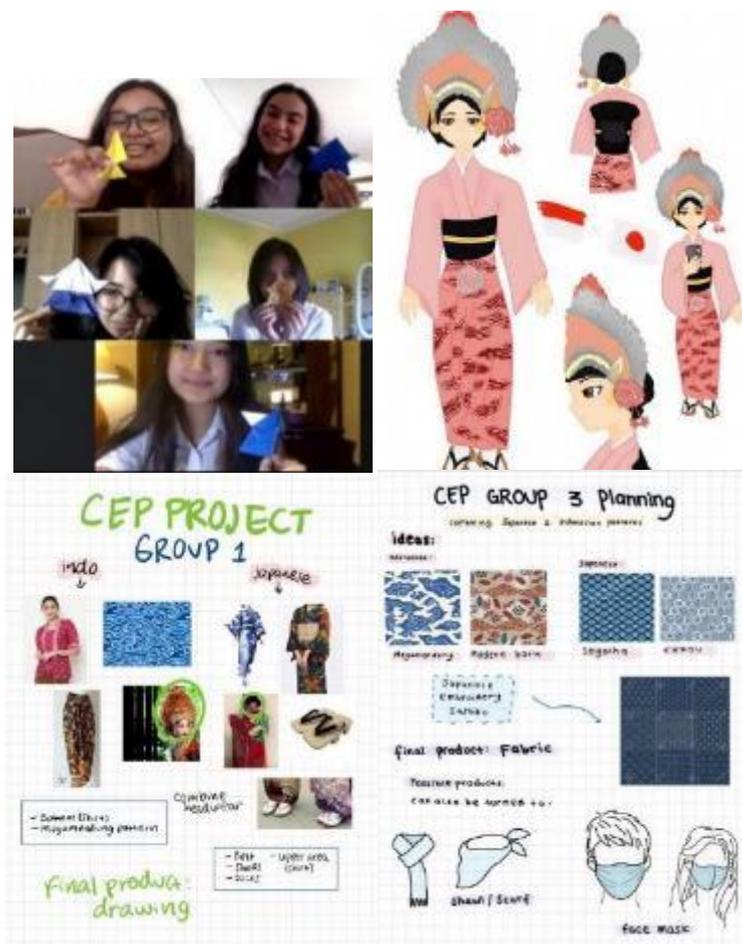
Google MeetやZoomなど様々なオンラインのツールを活用した。生徒が自宅でも使用できるSNSを使用した。プレゼンテーションは、パワーポイントのみならず、動画や写真の編集ソフトを活用した。教員は生徒の進捗状況を見ながら、メールで日程調整を行った。

【今後の課題】

- ・時差と行うスケジュール
- ・ICT活用の知識と理解

【経緯】

2018(平成30)年10月	インドネシアのチカル高校の生徒8名の学校訪問
2020(令和2)年8月～12月	文化交流プログラム
同年 12月 7日	プレゼンテーション



他機関との連携による取組み【山形県立山形東高等学校】

計画していたシンガポール海外研修が中止になったため、研修で実施する予定であった課題研究英語発表会及び国際交流を、オンラインで実施。2年次国際探究科の生徒が、シンガポールの有識者である審査員及びシンガポール国立大学やシンガポール経営大学等の学生（院生）との質疑応答や異文化交流を全て英語で行った。

【プログラムの内容】

- Session 1「課題研究英語オーラル発表会」：2年次国際探究科生徒44名が、1年間取り組んできた24本の課題研究の成果発表の機会として、5つの分科会に分かれ、シンガポールの審査員3名及び学生（院生）10名に対し、英語オーラル発表をオンラインで行う。
- Session 2「異文化交流プログラム」：5分科会に分かれて、シンガポールの学生（院生）2名ずつとディスカッションを行う。
 - ・自己紹介・学校（学生）生活・趣味・夢中になっていること・将来の夢等について
 - ・相互の文化・地域課題・SDGsテーマ等について意見交換

【工夫した点】

- ・Session1では、英語発表後の質疑応答を充実させるために、事前にテーマと発表データを送付するとともに、練習会での発表の様子を撮影した動画をYouTubeに限定公開し、審査員等に見ていただくようにした。
- ・Session2では、豊富な英語コミュニケーションができるように、1人1台タブレットで分科会に参加させた。
- ・異文化理解に資するよう、シンガポールの様子がわかるような写真等を学生（院生）に準備いただき、紹介してもらった。
- ・交流相手の選定及び交渉については民間業者に委託した。



【今後の課題】

- ・Zoom会議を主催する技術の向上と、多人数が安定して接続できる環境の整備。

【経緯】

2018(平成30)年4月	本校に探究科2クラスが設置される。
2019(平成31)年4月	国際探究科・理数探究科の教育プログラムがスタートする。文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業【グローバル型】」に採択される。
2020(令和2)年1月	初のシンガポール研修を実施し、現地の高等教育機関で英語のオーラル発表会やポスター発表会を行う。
2021(令和3)年1月	中止となったシンガポール研修のプログラムの一部を、オンラインで実施。

海外の高校との連携による取組み【福島県立福島高等学校】

5年前から交流があるタイ王国のPrincess Chulabhorn Science High School Nakhon Si Thammarat校と、本校スーパーサイエンス部の生徒がオンライン交流を実施した。第1回目では、自分達が取り組む研究について両校の生徒達が発表し、英語で質疑応答やディスカッションを行い、互いに理解を深めた。第2回目以降は、共同研究の実施を目的とし、共同研究テーマについての議論を行った。両国の時差が2時間しかないことから気軽にオンライン交流が実施しやすく、2020年9月から月1回程度のペースで実施している。

【プログラムの内容】

- ・第1回目：「自己紹介、両校の紹介、研究発表、質疑応答」
- ・第2回目：「共同研究テーマの議論①」
- ・第3回目：「共同研究テーマの議論②」
- ・第4回目：「共同研究テーマの議論③」
- ～共同研究の実施～
- ・第5回目以降：「研究結果の共有、考察、まとめ」

【工夫した点】

- ・画面共有による議論が必要な場合にはZoomやGoogle Meetを用いて実施したが、細かい議論のやりとりはLINEグループを作成し、情報共有を行った。
- ・タイ王国の文化についても学び、文化や価値観の違いについても理解を深めた。

【今後の課題】

- ・共同研究グループを増やし、継続して取り組んでいく。

【経緯】

2015(平成27)年12月	Thailand-Japan Student Science Fair 2015に参加。Buddy校だったPrincess Chulabhorn Science High School Nakhon Si Thammarat校と交流開始。
2018(平成30)年6月	Thailand-Japan Student Science Fair 2018に参加。Princess Chulabhorn Science High School Nakhon Si Thammarat校と交流。
2020(令和2)年9月～	共同研究実施に向けたリモート交流開始

海外の学校との連携による取組み 【福島県立安積高等学校】

SSH事業における渡航しての海外研修が中止になったため、研修先として予定していたドイツNRW州エッセン市にあるウルフスクーレ校のグリーンクラブに所属する学生と4回のビデオ会議ツールによる共同研究（SDG s のゴールを複数設定）を実施。本校生10名が参加し、2020年12月～2021年3月まで月1回程度（1回90分程度）交流し、3月には共同研究の発表をした。

【プログラムの内容】

- ・第1回 Kick off meetingと位置づけ両校の紹介とブレイクアウトルーム機能を用いて1対1の意見交換。
- ・第2回第3回 両校生徒よりリクエストのあったSDG s の7ゴールについて、グループワークによるディスカッションと共同プロジェクトの創出。
- ・最終回 本校生徒の研究成果の発表、共同研究における提言のプレゼンテーション。

【工夫した点】

- ・エッセン市と都市間交流を推進している郡山市の支援を得ながら、研修先とのスムーズな交流を図った。
- ・学校では通信環境が脆弱なため、通信環境が良い公共施設等でオンライン交流を行った。PC端末とヘッドセットを各自使用し、通話環境の確保に努めた。
- ・生徒自身が取り組みたいSDGsのゴールを選択し、グループワークで交流を深めることにより、交流の持続性を図った。
- ・ビデオ会議ツールによる一斉交流以外に、両国生徒同士がSNSやグループワーク用の学習ツールを活用し、研究を深めた。

【今後の課題】

- ・共同研究の本校内外での発表の機会の設定。
- ・次年度以降の、オンライン及び渡航しての交流の内容精査。



【経緯】

2019(平成31年)4月	福島県立安積高等学校が文科省SSH（スーパーサイエンスハイスクール）に指定される
2020(令和2年)9月	ドイツNRW州エッセン市に渡航しての国際交流事業の中止決定
同年12月～ 2021年(令和3年)3月	ウルフスクーレ校のグリーンクラブ所属の学生とのオンライン交流実施

海外の高校との交流による取り組み【福島県立会津学鳳高等学校】

SSH事業の一環である台湾海外研修が中止されたため、その代替行事として本来訪問する予定であった台北建国高級中学とオンライン交流を実施することになった。2020年12月に2回に分けて、本校第2学年生徒29名、建国高級中学2学年生徒23名が参加した。

【プログラムの内容】

- ・最初に、各学校11グループ(2~4人)を、ペアリングした。1回目の交流の前にメールにて自己紹介等の情報交換を行なった。
- ・1回目の交流は、Brief Introductionとして、パワーポイントを用いたプレゼンテーションで日本と台湾についての理解を深めた。
- ・2回目の交流では、事前にPadletで情報を共有した。SDGsをテーマに掲げ、「KAFOOT」アプリを用いたクイズ大会、各校の代表3チームずつが、「高校生がSDGsの解決に向けて何ができるか？」についてプレゼンテーション発表を行い、質疑応答を通して理解を深めあった。本校生は、「マイクロプラスチック問題」「再生可能エネルギー」「地域社会が取り組んでいるSDGs」について発表した。

【工夫した点】

- ・共通テーマがSDGsということで、生徒の理解を深化させるため、教頭による特別講義を通して「SDGsとはなにか？」を事前に学習した。

【今後の課題】

- ・来年度も台湾への訪問が危惧されているので、オンライン交流を継続させたい。回線の不安定さを改善すればさらにスムーズな交流ができると思う。



【経緯】

2010年4月	SSHに指定される。
2013年1月	SSH事業の一環として、台湾を訪問し、現地の大学や高校との交流を開始。
2020年8月	新型コロナウイルス感染症の影響により、台湾研修が中止となる。
2020年10~11月	建国高級中学と連携をし、オンラインでの交流の実施を決定。参加生徒を募集。
2020年12月	オンライン交流の実施

海外の中高一貫校との連携による取組み 【福島県立ふたば未来学園中学校】

学校主催の語学研修（TOKYO GLOBAL GATEWAY）が中止された代替として、同校2学年の生徒がオンラインでトルコの同年代の生徒と交流を行った。ミーティングアプリを使用したインタビューや、動画投稿アプリを使用してプレゼンテーションを行い、お互いの国や文化、人物について理解を深めた。

【プログラムの内容】

- ・トルコのBesiktas Anatolian High Schoolの14-15歳の生徒(CEFR A1-A2, A2-B1, B1-B2レベルの3クラス)との交流
 - ミーティングアプリを使い、お互いの自己紹介からインタビューを行った。
 - 動画投稿アプリFlipgridを利用し、お互いの国、歴史や文化についてプレゼンテーションを行った様子を撮影したものを投稿し、お互いに視聴した後コメントするなどして交流を行った。
 - 上記の活動を通じて、お互いの英語学習に対する意欲を高め、「目的・場面・状況」を設定し、実際に英語を使用したコミュニケーションを経験することで、喜びや悔しさを経験し、さらなる英語学習に対する意欲の向上につながった。

【工夫した点】

- ・通常授業で使用している教科書の中にあるプレゼンテーションの題材の発表を活用することで、生徒の負担過重にならないように工夫した。生徒の、プレゼンテーションの原稿や資料の作成、発表練習に対する意欲的な取組みはこれまでと比べ、格段に向上した。

【今後の課題】

- ・6時間の時差を考慮すると、ライブでの交流が困難なことである。今後、ライブでのインタビュー活動やディスカッションを取り入れる場合は時差の少ない国の学校との交流も検討していきたい。



【経緯】

2020(令和2)年3月	学校主催の国内での語学研修が、コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言のため中止となる。
同年10月	オンラインでの海外研修を検討し、トルコのBesiktas Anatolian High Schoolと交流を開始する。
同年11月	互いに事前に自己紹介動画を投稿し視聴した後、ミーティングアプリを使用してライブでの交流を実施する。
同年12月	動画投稿アプリを使用して、お互いに自国の文化や歴史等について紹介するプレゼンを実施した。



他機関との連携による取組み【茨城県立竜ヶ崎第一高等学校】

例年、近隣大学の留学生を招いて国際交流を行っていたが、留学生の派遣が困難となったためその代替えとして、と2020年（令和2年）11月にオンライン授業サービスを利用して、インドとモンゴルの高校生24名、本校1年生24名が参加して「レインボー国際交流」というプログラムを実施した。事前研修も行い、生徒たちは5つのグループに分かれ、SDGsのテーマについて調べ、Google スライドを作成してプレゼンテーションを行った。

【プログラムの内容】

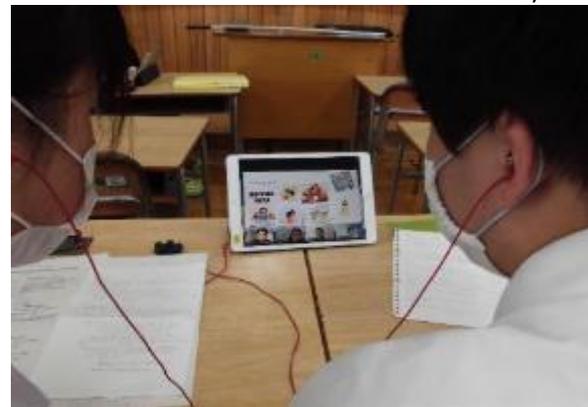
- ・イントロダクション：各グループアシスタントと当日の流れの確認・生徒個人の目標設定
- ・自己紹介：1人1枚スライド作成し、自己紹介
- ・ディスカッション1：身近な話題「日常活動や部活動（課外活動）」についてグループで1つ写真やイメージをもとに準備したスライドを発表し、相互に質問し合う
- ・ディスカッション2：社会問題「グループごとに興味のあるSDGsについて」グループプレゼンテーション形式で議論（自分の国でどのような影響を及ぼしているか、海外での現状、問題の現状と原因を共有）し、相互に質問し合う
- ・振り返り：今日の感想の共有と個人目標の達成度確認
- ＊生徒の事後アンケートでは、「新しいことを知ることができ、もっと英語を頑張ってコミュニケーションを取れるようにしたい。」という意見が多く、英語学習へのモチベーションも上がっている。

【工夫した点】

- ・Zoomの使い方についての講習を行い、事前にZoomを用いてプレゼンテーションのリハーサルを行った。
- ・生徒全員が自己紹介とプレゼンテーションの発表をする機会を設けた。

【今後の課題】

- ・今年度は1度限りの企画であったが、継続して取り組めるようにしていきたい。



【経緯】

2020（令和2年）7月	例年交流している近隣大学へ留学生の派遣を要請。
同年8月	大学より留学生派遣ができない旨の回答があり、代替案を検討。
同年9月	オンライン授業サービスを利用した国際交流プログラムを企画し、参加生徒を募集。
同年11月	4回の事前研修を経て、オンラインによる異文化交流のプログラムを実施。

海外中等学校との連携による取り組み【栃木県立佐野高等学校】

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、海外フィールドワークを実施することができなかった。そこで、昨年度訪問したマレーシアのクチンにあるセント・テレサ・セカンダリー・スクールの生徒とオンラインで国際協働課題研究を行うこととした。佐野高校から3名セント・テレサ校から3名の6名で1グループとし、全部で5グループ作成した。世界の「共通言語」とも言えるSDGsを達成するために、各グループで研究テーマを設定し、週1回程度SNS等を用い英語でディスカッションした。2020（令和2）年の7月に協働研究を開始し、約5か月間に渡って議論を重ね、12月に最終発表を行った。

【プログラムの内容】

- ・ 5か月にわたるプログラム
 - マレーシアに関する講演①地理・民族、②教育・自然
 - マレーシア長期滞在経験者によるマレーシア概論の講座
 - 課題研究方法講座
 - JICA訪問
 - ベトナムFPT高校との交流会・ディスカッション
 - 立命館宇治高等学校主催第3回全国高校生SRサミットFOCUSでの発表
 - 文科省主催高校生フォーラムでの発表



【工夫した点】

- ・長期にわたる協働研究だったので、適宜、担当者による面接を行い、モチベーションや方向性の確認、困っていることがないかなどチェックを行った。

【今後の課題】

- ・実施期間や協働研究のレベルの向上、語学力の向上などが課題となっている。



【経緯】

2019（令和元）年7月	SGHクラブ研究班の14名が課題研究のフィールドワークとしてマレーシアクチンを訪れた際、セントテレサ校と交流を行った。
2020（令和2）年7月	佐野高校・セントテレサ校 国際協働研究オンラインオープニングセレモニー
2020（令和2）年7月 ～12月	協働研究実施（5か月間）
2020（令和2）年12月	佐野高校・セントテレサ校 オンライン合同最終発表会

グローバル交流を通して、生徒の主体性や興味関心を引き出すための取組 【群馬県立沼田高等学校】

本校において本年度から実施する予定であった台湾への修学旅行が、新型コロナウイルス感染症の世界的広がりによって中止となった。本校では、従来より授業におけるオンラインの国際交流を行ってきた実績がある。そのノウハウを生かし、修学旅行の代替事業の一つとして、修学旅行先である台湾の学校と交流ができるよう検討し、生徒の意見をもとに相手校の選定を行った。国際交流をすること自体が初めての生徒が多かったものの、交流プログラムについては生徒が主体的に企画、運営を進めてきた。また、少しでも良い交流とするために、実際に校内でオンライン交流の疑似体験を行い、生徒どうしで評価し、実際に交流を行う代表者を選抜した。当日は、お互いの国や地域、学校の説明を取り入れながら、英語や台湾華語にチャレンジしながら交流をすることができた。

【プログラムの内容】

- 交流テーマ：「日本、群馬県、沼田市の紹介」、「花蓮女子高校の紹介」、「日本のアニメや流行について」、「Q&A」

【工夫した点】

- プログラムの実施に当たって、生徒が主体的に、企画の立案、準備、代表者選抜を行った。
- 実際の交流を想定し、校内でもオンラインを活用した疑似体験を行い、交流の代表者を決めた。
- 様々な教科の学びを生かし、英語や台湾華語に挑戦する場面や、生徒による学校校歌の演奏を交流プログラムに取り入れた。
- 交流のための実行委員会をつくり、英語による司会進行、通訳や生徒会副会長による挨拶等も取り入れた。

【今後の課題】

- 全員の生徒が英語や台湾華語を用いながら交流する場面を持ちたかったが、時間制限のある授業内では実現できなかった。
- 群馬県では生徒一人一台端末の配布が実現したので、今後は生徒一人ひとりが交流できるような企画を検討したい。
- 交流する相手国によっては、時差の関係で授業時間における交流が難しい国もあるため、今後どのような形で交流ができるかについて検討したい。



【経緯】

2020（令和2）年9月	台湾修学旅行の中止が決定し、生徒からオンラインによる国際交流実施の要望があり、相手校を選定する。
2020（令和2）年10月	2019年群馬県台湾フェアでお世話になった方に相談し、台湾のドキュメンタリー映画「湾生回家」に出演されている方より、国立花蓮女子高級中學を紹介していただき、担当の先生と11月の本番までメールで打ち合わせを行う。
2020（令和2）年11月	校内でオンラインによる交流の疑似体験を行い、生徒どうしで代表者を決定した。（Google meetを使用）
2020（令和2）年11月	国立花蓮女子高級中學との国際交流を実施した。



海外研修時における学校交流相手校とのオンライン交流会の取り組み【群馬県 共愛学園高校普通科特進コース】

10年来実施している台湾研修での学校交流会が中止になったため、双方の意向により、タブレット使用のオンライン交流会を企画。同校普通科特進コースの2年生26名が参加。2020年12月の実施に向けて、同年9月から交流校の生徒とまず1対1のパートナー交流を開始。計2回のオンライン交流会ではグループを作り、テーマに基づいたスライド資料等を用いたプレゼンテーションや意見交換を実施。交流会終了以降も個人間での交流は継続している。

【プログラムの内容】

○事前交流：10年来の学校交流を持つ「臺北市立士林高級商業職業學校」生徒さんとの個人間でのオンライン交流を開始。窓口となる双方の教員がオンラインにて打ち合わせを重ねる中でプログラムの全体像を構築。事前準備は数か月間に及ぶ。

○参加生徒人数：台湾側35名 日本(本校)側26名

○トークテーマ：

第一回(2020/12/11) ① Self-introduction ② Introduction to the tourist spots of one's own city / country

第二回(2020/12/18) ① Introduction to the delicious food of one's own country

② Introduction to the popular music (singer and songs) of one's own country

○使用言語：英語

○使用ツール：

各班1台iPadを用意。Zoomに繋ぎ全体集合を行った後、ブレイクアウトルームを使用して各班で交流。

○フォローアップ：本校ホームページに2週連続でオンライン交流会の様子を画像と共に掲載し、同時に台湾の交流校にもその旨をお知らせして、交流会の様子をあらためて情報共有した。

【工夫した点】

・オンライン交流の趣旨を鑑み、個人間交流ではSNSも駆使しながら意思が明確に伝わるようにした。また、交流会当日に向けてパワーポイントによるプレゼンテーション材料等を用意し、視覚的効果も意識しながらの題材づくりを目指した。

【今後の課題】

・コロナ禍の世界情勢が好転して台湾研修が可能となる場合も含めて、共通言語である英語力のアップと共に、日本全土や各々の居住地域に関する歴史、文化等を対外的に発信できる力をスキルアップさせることが肝要。

【経緯】

2011(平成23)年11月	台湾研修開始。学校交流会相手校として臺北市立士林高級商業職業學校を訪問。以降毎年11月に学校交流会を実施。[台湾研修 = 4泊5日にて実施]
2020(令和2)年12月	同年11月実施予定の台湾訪問が中止。オンライン交流会の企画立ち上げ。

海外の高校との連携による取組み（イタリアの高校との文化交流）【群馬県 東京農業大学第二高等学校】

宮崎駿のジブリ映画「紅の豚」のモデルとなったイタリア人パイロットのアウトゥーロ・フェラリンが1920年、ローマ-東京間のアジア大陸横断初飛行を達成した偉業から100周年を記念して、日伊文化交流が企画された。フェラリンの母校であるコラディニ高校と、農大一高、二高、三高の4つの学校間で異文化交流を実施した。

【プログラムの内容】

それぞれの高校が、日本とイタリアに関する歴史や文化に対して調べたことをオンライン上（Zoom）でPower Pointを使いながら発表した。

【工夫した点】

イタリアも日本もそれぞれ休校措置に至る中、実施時期を工夫しながらそれぞれの課題の研究に取り組んだ。

【今後の課題】

今後も交流を続けていきたい。



【経緯】

2019（令和元年）3月	コラディニ高校との連携開始。
2019年（令和元年）10月	各学校の紹介ブログの掲載。
2020年（令和2年）11月	イタリアとのセッションを実施。

留学先との連携による取り組み【埼玉県立所沢高等学校】

夏季休暇期間中に行われる予定だったニュージーランド語学留学（隔年の夏季休暇中に実施）が新型コロナウイルスの世界的感染で中止になったため、その代替としてZoomを用いたオンラインによる連携学習を行った。

【プログラムの内容】

- ・毎週金曜日午前6：00～6：30（現地時間午前9：00～9：30）、ニュージーランドのオークランドにあるラザフォード高校の日本語クラス(13名)と交流。

【工夫した点】

- ・ラザフォード生2名、本校生2名のグループに分かれ、基本はラザフォード生の日本語の習得のためだが、適宜英語も使いながら進める。
- ・グループに分かれて、ブレイクアウトルーム（グループに分かれてミーティングする機能）を使用した。
- ・自己紹介（本校生は英語、ラザフォード高生は日本語で）や学校紹介など
- ・生徒は自宅からスマートフォンでも参加できる。

【今後の課題】

- ・時差や現地のサマータイム等があり、時間を合わせるのが難しい状況があった。
- ・自宅等でインターネット環境が整っていない生徒への対応

【経緯】

- ・語学留学は隔年の夏季休暇中に実施（過去10年では2012、2014、2016、2018年）
- ・新型コロナウイルスのため、2020年度は現地への留学が中止になった。
- ・2020年6月より、トライアル的に実施した。10月までに計4回実施。



これまでの国際交流を継続するための取組み【埼玉県立吹上秋桜高等学校】

平成18年度より、オーストラリア人講師を迎えて多文化共生の校内イベントを行ってきた。本年度も継続して行う計画をしていたが、新型コロナウイルス感染症の状況下で、講師が来日できないため、コロナ禍でも国際交流の機会を途絶えさせない方法がないかを探っていた。先方より、講師自身が在学している日本語通訳コース（オーストラリア、クイーンズランド大学）の授業への参観の提案を受け、代替えとした。

海外にバックグラウンドがある生徒、海外や外国語に関心がある生徒・職員、海外の学習方法・学習の様子をリアルタイムで紹介する対象者を限定しないオープン型で実施。

【プログラムの内容】

- ・9月から毎週金曜、2時間、5週にわたって様々なテーマ、専門講師の話（日本語・英語）を学生達が通訳練習している授業を参観。

【工夫した点】

- ・毎回、事前に学習テーマ、ゲスト講演者情報を大学よりもらい、本校生徒に理解しやすいよう写真や情報を整えて案内を作成。校内に予告の掲示・配布を行った。
- ・先生方による生徒への声掛け、講演テーマの専門に近い教科の先生方への声掛けを行った。
- ・現地時間（本校開始時間前）にあわせた開講となったため、あくまで自由参加・途中退席を自由とし、生徒、職員にアクセスのよい教室、ICT担当の先生の協力を仰ぎzoom通信環境の安定を図った。

【今後の課題】

- ・今回の試みは、国際交流の機会を人物との触れ合いから海外の授業を体感することへ変更したため、対面で行っていた時のような双方行の熱を感じることが難しかった。そんな中、外国語を母語とする生徒達が、海外の授業を見て、英語→スペイン語→ポルトガル語→日本語へと自発的にリレー通訳を楽しむ姿が見られた。このような生徒の力を生かした国際交流の機会も今後は、考えて行きたい。

【経緯】

2018(平成30) 12月	多文化共生の校内イベントとして オーストラリア人講師を迎えて日本語による講演会を実施。講演後、生徒達とクラフトワークをしながら、フリートークの時間を持ち、異文化理解、コミュニケーションの機会を持った。
2019 (令和元) 11月	多文化共生の校内イベントとして 昨年度と同じ講師を迎えて日本語による講演会を実施。海外にバックグラウンドを持つ生徒達に母語力を生かした通訳・翻訳の世界を紹介した。



他機関との連携による取組み【埼玉県立蕨高等学校】

例年本校では埼玉県高校生海外短期派遣事業として、希望者に対して、オーストラリアへの2週間短期派遣プログラムを実施している。現地校のバンクシアパーク国際高校で授業を受け、現地大学見学やアデレード市内の散策等、派遣実績を残してきたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、受け入れが中止となった。そのため、急遽オンラインによる現地校との交流会を企画した。本校外国語科1年生40名と現地校で日本語を学んでいる17名の生徒が、昼休みと4時限（65分授業）の前半の時間帯を利用して交流を行った。

【プログラムの内容】

11月10日(火) 12:45~13:15、普通教室にて、Zoomを用いてオンライン上での交流会を実施。PC画面を黒板に投影し、教室内の全員がやり取りを見えるようにした。相手校の生徒はオーストラリアの文化等についてプレゼンしてくれた。本校は代表者7名が挨拶や準備してきた自国の文化の簡単な紹介を絵や写真等を交えて発表し、その後質問をする等積極的な交流を行った。

【工夫した点】

- 交流のテーマは本校の紹介と各自が選んだ自国の文化、関心事等の親しみやすい内容。
- 司会等事前準備をしっかりと行い、当日は生徒の主体的な進行でプレゼンが行われた。
- プレゼン内容については、スクリプトを事前に準備し、各自がきちんと練習をして臨んだ。
- 絵や写真だけでなく、紹介したい物を実際に持ってきてプレゼンをする生徒もいた。
- 事前に各校の担当者同士でメールおよびZoomにて打ち合わせと接続確認を行った。



【今後の課題】

- Zoomによる接続が安定しないことがあり、お互いの反応を確認するのが難しい場面があった。
- マイクから離れて話す相手校の生徒の声が聞き取りにくいことが多かった。
- 一つの端末から交流をする生徒数を少人数に抑え、接続機器から距離を取りすぎないことが望ましい。
- 時差はほとんどないが、カリキュラムの違いから、日程や時間帯の都合を合わせるのが難しかった。

【経緯】

平成3年～	埼玉県高校生海外短期派遣事業として、南オーストラリア州アデレード市にあるバンクシアパーク国際高校に毎年生徒を派遣。
令和2年4月	新型コロナウイルス感染症の影響のため、今年度の海外派遣の中止を決定。
令和2年10月～11月	本校国際交流部にて、オンライン交流会を企画、現地校の先生方とメールでのやり取りを通して、企画内容をまとめる。
令和2年11月	Zoomを用いてオンライン交流会実施。

他機関との連携による取組み【埼玉県立蕨高等学校】

例年本校では国際交流基金日中交流センターより中国からの留学生の受け入れを行っていたが、今年度は受け入れが中止となった。そこでオンラインによる交流会を企画。本校外国語科2年生中国語選択者15名と、中国岑鞏第一中学（貴州省 黔東南ミャオ族トン族自治州岑鞏県）の日本語選択者17名が、2回にわたり放課後の時間帯を利用して交流を深めた。

【プログラムの内容】

第1回目の交流会（12月16日16:00～17:00）は、全体で一画面を共有し（プロジェクターで投映）、挨拶や準備してきた自国の文化の簡単な「紹介」を写真などを交えて行った。第2回目（1月15日同時）は、ブレイクアウトルームを用いて少人数の4グループがそれぞれタブレット使用し、「やりとり」に集中した。お互い片言の日本語と中国語で、写真、絵、クイズ、筆談を駆使しながら、質問をし合うなどのコミュニケーションを取ることができた。終了時には、お互いの連絡先を交換したいという声も多数上がり、次につながる交流となった。

【工夫した点】

- 交流のテーマは学校生活や自国の文化、関心事等の親しみやすい内容。
- 少人数のグループ学習により、自発的な発言を促した。
- 事前学習を第二外国語中国語の講師に依頼した。
- 事前に複数回、担当者がZoomによる打合わせと接続確認を行った。
- 日中交流センターの担当者がホストとなり、教員は生徒への指導・支援に集中できた。



▲第1回目

【今後の課題】

- 事後アンケートの結果、参加生徒の満足度は高く、国際交流への興味・関心が十分に高められた。継続的な交流会の実施が求められる。



▲第2回目

【経緯】

令和元年9月～ 令和2年4月	国際交流基金日中交流センターの「心連心 中国高校生長期招へい事業」第14期生の受入れ。 新型コロナウイルス感染症の影響により早期帰国を決定。
令和2年4月	新型コロナウイルス感染症の影響のため、埼玉県教育委員会より2020年（令和2）年度の留学生受入れの中止が決定。
令和2年7月～9月	国際交流基金日中交流センターより、日中高校生対話・協働プログラムの企画案の募集開始。9月に企画案を提出。
令和2年11月	国際交流基金日中交流センターより、本校の企画案「日中高校生オンライン交流会」が採用。

海外の高等学校との連携による取り組み【千葉県 和洋国府台女子高等学校】

学校主催の語学研修(オーストラリア研修・冬期語学研修)と文化研修(イギリス・イタリア)が中止された代替として、国際交流プログラム提供会社を活用して、マレーシアやインドの学校との1日オンライン交流を実施した。
高2生徒27名が参加した。

【プログラムの内容】

オンラインで本校生徒数名と海外の生徒数名がグループを作り、自己紹介をしてからテーマ(お互いの国の行事や生活、自分の興味や将来の夢)について話し合います。異文化理解を深め、充実した内容にするために、本校の国際交流担当教員による事前学習を行った。

【工夫した点】

事前学習では、Google Earthなどを使用して、できるだけ現地の雰囲気味わえるようにした。
また、生徒が発言できる機会を確保するため、小グループにわけて、海外の生徒に聞きたい質問リストを作成させた。

【今後の課題】

今回のオンライン交流は良い経験でしたが、さらに相手校と別のオンラインセッションを行って、より深い異文化理解を促していきたい。



海外の高校との連携による取り組み【東京都 日本大学鶴ヶ丘高等学校】

提携校である、Grace Lutheran College（オーストラリア・ブリスベン）との提携行事である

①本校生徒を15名派遣する語学研修

②Grace校から本校に20名程度の生徒が来日し、ホームステイを行うJAPAN TOURが新型コロナウイルスの影響で中止となった。その代替となることは勿論、さらに国際交流の可能性を柔軟に広げていくことを期し、新企画“ZoomPal Project”を立ち上げた。ビデオチャットサービス『Zoom』を用い、継続的に“本当の友情の構築”を目指し生まれた企画に、双方から30名の生徒が参加してくれた。タイトル“ZoomPal”は、昔の「ペンパル」から着想した、両校のコーディネーターが名付けた造語である。Pal = 仲間、友達 であり、生徒たちも親しみを持ってこの名前を使ってくれている。

【プログラムの内容】

各校から希望者を募り、30名を選抜。担当で学年・性別・趣味等のバランスを考慮しマッチングを行い、二人一組の『Buddy』で会話を行う。固定のBuddyで、月に一度のペースで様々な課題（アサインメント）をこなす。
 <アサインメント一例>

- ・お互いの学校、地域紹介 ・Buddyにインタビュー！新聞づくり ・会えなくても、2ショットを撮ってみる
- ・グリーティングカード送付 など、実際に同じ学校の友達と行うような交流やりとりを実施した。



【工夫した点】

本企画の参加者を選抜するにあたり、英語力は不問とした。英語が苦手でも、外の世界とつながってみたい！と思う意欲がある生徒を募集した。そのため、ただ会話をするというよりも、課題 = 共同の作品 を設けることによりコミュニケーションの糸口を見つけやすくした。

【今後の課題】

30ペアもあると、会話がうまくいく者もいればそうでない者もいる。今年はコロナ禍の影響で、本校の参加生徒とコーディネーターの面談・ミーティング等もうまく実施することができなかった。参加者の不安や困難を、次年度は面談で緩和できたらと考えている。

【経緯】

2000年（平成12年） ～2019年（令和元年）	Grace校との提携開始。 語学研修を毎年、JAPAN TOURを隔年で実施。
2020年（令和2年）4月	ZoomPal Project 立案
同年 7月	選考実施
同年 8月	初回ミーティング実施



海外の高校との連携による取組み 【東京都 昭和女子大学附属昭和高等学校】

【SGH LABO研究】による海外研修実施にあたって、訪問先高校との事前交流を行うために、ビデオ会議ツールを用いた交流を2016年から3回実施。相手校はUNESCOスクール指定校ヘルシンキ国際高校で、日本語授業選択者との日本語と英語を使ってのお互いの国についての文化や意見交換を行った。

【プログラムの内容】

2014年文科省からSGHの指定校を受けてLABO活動の一つとして「日本人女性のジェンダーギャップ」を研究テーマとした。

2016年5月、2017年5月、2018年5月の3回 海外研修前の事前交流として、お互いの国の紹介などをテーマにヘルシンキ国際高校の生徒と本校生徒10名がSkypeを使い、交流を行った。

【工夫した点】

- ・先方の学校は日本語授業選択者で日本語と英語で交流を行った。相手校の日本人教師と連絡を取り合い、調整し合った。事前に交流を行うことで実際に訪問した時に、相手国の文化や生活の様子や同年代の人の考え方をある程度知ったうえで、交流が行えることで、実際の対面交流が取り掛かりやすい効果があった。

【今後の課題】

- ・ヘルシンキとは時差がマイナス7時間あり、時間の調整が難しい点もあるが、生徒の登校中の時間のみでなく、家庭における時間にもオンラインであれば交流が可能であるのでさらに工夫検討する。
- ・交流をきっかけに、UNESCOスクール交流のように、お互いに教育活動として広げていけるようにする。



【経緯】

2014（平成26）年	文部科学省からSGHの指定校に選出される。研究活動グループLABO2として「日本人女性のジェンダーギャップの研究」をテーマに研究を始める。
2016～2018（平成28～30）年	ジェンダー先進国であるフィンランドの海外研修を実施。ヘルシンキ国際高校を訪問するにあたり事前交流の一環としてSkypeを使い相手校高校生と交流を行う。
2019（令和元）年	「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」指定校に選出される。LABO2として研究を継続。フィンランド研修実施。
2020（令和2）年	UNESCOスクール同士として相手校は「フィンランドの幸福感」本校は「ジェンダー問題」についてビデオ会議ツールでディスカッションを実施。 コロナ渦によってフィンランド研修が中止になる。LABO活動として新たに訪問予定先のヘルシンキ国際高校とZOOMで交流することを計画調整中。

海外の高校との連携による取組み 【東京都 昭和女子大学附属昭和高等学校】

学校主催の海外研修（カンボジア：プノンペン、シムリアップ）を中止した。その代替として、プノンペン市内のTeuk Laak高校協力の下、2020年9月5日にZoomによる交流会を開催した。8名（1年生4名、2年生4名）の生徒がカンボジアの高校生（12名）とオンラインセッションを行い、日本とカンボジア双方についての理解を深め合った。

【プログラムの内容】

- ・新型コロナウイルスが社会に与えた影響について、それぞれの国の状況についての情報交換。政府の政策の違いや日常生活の変化等について発表し、それぞれの疑問点について話し合った。
- ・将来の夢や希望について話し合い、現状をどのように乗り越えていくことが重要だと考えているか、お互いの考えを発表し合った。

【工夫した点】

- ・それぞれの学校で質問をしたいことを事前に話し合い、お互いの学校に提示した。そのため当日の質疑の時間をスムーズに運営することができ、交流会の質の向上にもつながった。

【今後の課題】

- ・交流言語は英語であり、さらなる英語力の向上と対面とは異なるコミュニケーション力の育成が必要である。



【経緯】

2018(平成30)年10月	カンボジア・プノンペン市内のTeukLaak高校を訪問。学校紹介、文化交流、意見交換会を開催。
2019(令和元)年 8月	カンボジア・プノンペン市内のTeukLaak高校を再訪。学校紹介、文化交流、意見交換会を開催。
2020(令和2)年 7月	海外研修中止を受け、現地コーディネーターを通じてTeukLaak高校とコンタクトをとる。交流会を企画。
2020(令和2)年 9月	オンライン交流会実施

海外の高校との国際交流の取組み【神奈川県立横浜氷取沢高等学校】

オーストラリア連邦南オーストラリア州の高校との間で生徒が相互訪問を行っていたが、中止となったため、代替として、ビデオ会議ツールを活用して「比較文化研究」についての協働学習を実施。参加生徒は1・2年生の19名。実施期間と回数は令和2年8月から11月に4回行い、発表は個人単位でスライドを用いたプレゼンテーション等を実施。相互訪問が再開したのちにも事前事後学習として活用していく予定。

【プログラムの内容】

全体テーマ「比較文化研究～国際理解～」

- 第1回 参加交流委員の自己紹介及び日本・オーストラリアの興味を持っている文化、学校の紹介。
- 第2回 自分が住んでいる地域の紹介と日常の学校生活や生活様式の紹介。のちに意見交換。
- 第3回 「自国のことば」というテーマで英語及び日本語の表現や慣用語の紹介。
- 第4回 「自国の高校生活～修学旅行、独自の文化」の発表。のちに意見交換。

【工夫した点】

- ・指定されたMeetルームに集合し、自作のスライドを活用をして、1対1や1対2のペアになり、プレゼンテーションを実施した。
- ・教育活動に特化したSNSプラットフォームも利用し、交流後に出た疑問点を互いにやり取りをし、解決できるようにした。
- ・参加交流委員はオンラインによる志望理由書を提出。書類審査、面接を行って決定した。

【今後の課題】

- ・総合的な探究の時間の発表プレゼンテーションなどを活用した自主的に探究的な活動になるように支援していく。
- ・校内のWi-Fi環境をより一層の整備・充実させる。

【経緯】

平成27年	オーストラリア連邦南オーストラリア州アデレード市のパラフィールド・ガーデンズ・ハイスクールとの間で年1回の相互訪問を始めた。
令和2年6月	新型コロナウイルス感染症拡大のため相互訪問の中止を決定し、オンライン交流の企画調整を始めた。
令和2年7月	参加希望生徒の書類審査、面接を行った。
令和2年8月	ビデオ会議ツールを活用し、オンラインでの国際交流を開始した。



Australia Parafield Gardens high schoolとのオンライン交流参加者募集

期 令和2年9月～3月（月1回程度）
交流日の時間帯（5時～9時）該当の授業は欠かくなりません。
交流校 オーストラリアのパラフィールド・ガーデンズ高校
定員人数 20名程度 約20名前後というはあくまで目安です。
対象学年 1、2年生

参加希望方法：本紙のQRコードを読み取って、応募事項を投稿してください。
選考方法：書類審査、面接

・不明点等あれば、お電話まで 国際・連携グループ（担当：中島、森（他））

募集期間8月22日（月）～7月3日（金）17時迄

内容

- ・自己紹介
- ・学校紹介
- ・自国文化のプレゼンテーション
- ・生徒による日本語、英語授業
- ・ニュースの討論（新型コロナウィルス、SDGs等）

英語力アップ

国際理解

学校内だけでなくオーストラリアの友人が出来る

目標

プレゼン力アップ



他機関との連携による取組み【神奈川県立鎌倉高等学校】

令和2年度に新たに設置した英語研究会（同好会）にて、令和2年4月に設立された任意団体「『教室から世界一周！』プロジェクト」（通称・WTOC）の協力のもと、ビデオ会議ツールを用いたディスカッションをフランス、メキシコ、イスラエルの中高生や社会人日本語学習者と実施した。令和2年7月より、定期的（月2回）に週末の1時間程度行った。フランス、メキシコ、イスラエルの生徒は皆日本語の学習者であり、英語と日本語を交えながら交流を図った。

【プログラムの内容】

- ・全体テーマ：世界の同世代の生徒との意見交換を通して、多様性を知り、「自分らしさ」を考える。
- ・主な授業構成：①アイスブレイク（10分）②テーマに沿って、2～5人ほどの小グループに分かれてディスカッション（30分）③話し合った内容を発表（20分）
- ・これまでに扱ったテーマ例
 - メキシコ：死者の日について、成人するとはどういうことか、バレンタインデーの過ごし方の違い等
 - フランス：学校制度の違い、将来について考えていること、お互いの学校紹介等
 - イスラエル：お互いの国について聞きたいこと（日本とイスラエルの生活の違い等）

【工夫した点】

- ・生徒一人ひとりが主体的に取り組めるよう、ディスカッションは極力小グループで行った。（日本人がグループに一人という状況も頻繁に作った）
- ・様々な違いや類似点を生徒が自ら発見できるよう、ディスカッション中は極力教員は介入せず見守った。

【今後の課題】

- ・現在は部活動の中での活動のみだが、令和3年度からは英語の授業の中でも実施できないかを検討している。



【経緯】

令和2年6月	「『教室から世界一周！』プロジェクト」の代表者と連絡をとり、本内容についての検討を開始。交流先の学校を探し始める。
令和2年7月	休校期間により延期になっていた英語研究会（同好会）の設立が正式に決定。
令和2年7月	フランスプレスト市にあるラ・クロワ・ルージュ高校と第1回の交流を実施。

海外交流校（韓国）との連携による取組み【神奈川県立菅高等学校】

神奈川県指定校事業「確かな学力育成推進校」の取組みの一環として、日頃の教育活動、特に外国語学習の成果検証と国際理解、異文化理解の促進を図るため、2019（令和元）年10月から韓国高校生との英語による文通を開始した。次代を担う日韓の高校生が行き来することなく、文通やオンラインで交流することにより相互理解を深め、未来志向の日韓関係構築にも寄与するプログラムとなっている。2020（令和2）年11月から複数回文通、ビデオレター作成を行い、2021（令和3）年2月にはZoomによるオンライン交流を実施し、両国の文化、スポーツ、エンタメ、食べ物、高校生の日常等について、日頃の言語学習の成果を発揮すべく英語、韓国語、日本語を駆使して意見交換を行った。

【プログラムの内容】

- ・学校生活や自分の身の回りにある事柄について意見交換を行い、文化的な違いに気付いたり、共感することにより異文化理解の促進、深化・充実を図る。
- ・外国語教育活動が、実際にコミュニケーション・ツールとして意思疎通できるレベルにあるかどうかを検証する機会となっている。また、実用的な外国語運用能力習得に向けたモチベーション向上にも繋がっている。

【工夫した点】

- ・授業内で文通、オンライン交流に必要な英語、韓国語の表現やプレゼンテーションスキルについて事前に学ぶ機会を複数回確保
- ・神奈川韓国総合教育院（大韓民国政府海外教育機関）と連携し、文通やオンライン交流をより効果的にするために講師を招聘し、韓国文化、学校制度、韓国語表現等について学ぶ韓国文化講座を企画（新型コロナで中止）

【今後の課題】

- ・生徒の声を今後の外国語学習活動の改善と交流事業の活性化に繋げたい。

【経緯】

2019（令和元）年10月	韓国京畿道披州市のハンビッ高校（한빛고등학교）と英語による手紙交換を開始 本校3学年生徒約70名が参加し、ハンビッ高校HPや新聞報道等でその成果を情報発信
2020（令和2）年11月	同校と2度目の文通を開始。本校2学年生徒約50名が参加。ハンビッ高校生徒がビデオレター作成
2021（令和3）年2月	ZOOMによるオンライン交流実施（本校2学年生徒約50名、ハンビッ高校生徒約20名参加）



海外の高校生との交流・研修会の取組み【福井県立敦賀高等学校・ギムナジウムヴィンゼン・BBSヴィンゼン(ドイツ連邦共和国)】

平成27年から続くコロナ禍の中で実施困難になったドイツの2校との交流や学習（福井県のドイツ高校生共同学習交流事業の一部として実施）を継続するため、また昨年度参加した生徒やその家族に国際交流の機会を提供するとともに、総合的な探究の時間（敦高スタディ）で国際分野や教育分野に取り組む生徒が、自身の研究に繋げることを目的としている。またこれをきっかけとして、両校で探究プログラムを行うこととなり、現在進行中である。本取組みは令和2年7月17日に実施した。探究プログラムは11月より進行中である。

【プログラムの内容】

7月17日（金）20:30～接続開始

21:00～21:15 全体会（写真などを用いて近況を紹介し合う）

21:15～22:00 細かなグループに別れて分科会（ブレイクアウトルームを使用）

主なテーマ・Please share the experience you had during the stay-home period or share what you thought about school.

・What kind of difficulty did you have while you stay at home?

・What do you think is the meaning of school? Just studying?

※生徒の感想では、『教育や学校存在をあらためて考え直すことができた』、『ドイツでは早くからオンラインで学んでいることを知り、日本（自校）の現状が心配だ。』『もっとテクノロジーを積極的に教育に導入するべきだ』などという感想が聞かれた。総じて満足した会であったようだ。

【工夫した点】

- ・英語科教員や語学、国際系に進んだ大学生に協力を依頼し言語面で分科会を支援し、意見交換を促した。
- ・3校の担当教員が集まり、接続テストを実施した。生徒も事前に別に接続テストを実施
- ・参加者はワークシートを事前に配付し話す内容を準備

【今後の課題】

- ・この会合をきっかけとして探究プログラム（日独生徒混合でグループを作り探究し、最終的に発表する）を進めているが、活動の維持が難しい。またもっと頻繁にミーティングを実施したい。



【経緯】

2015年(平成27年)10月～	福井県の共同学習交流事業の一環としてギムナジウムヴィンゼン・BBSヴィンゼンより高校生を受け入れ。
2019年(令和元年)11月	福井県の共同学習交流事業の一環としてギムナジウムヴィンゼン・BBSヴィンゼンより高校生を受け入れ
2020年(令和2年)6月	当年度の交流事業の実施が見込めないことから（後に中止決定）高校独自に交流をメールなどで手段を模索
2020年(令和2年)7月	Online交流・研修会を実施(日独あわせて37名参加)
2020年(令和2年)11月	オンラインSDGs Project 開始(日独あわせて42名が参加)

教科横断型授業による取組み【愛知県立豊田南高等学校】

公民科・家庭科・英語科が「SDGs」をテーマとして連携し、それぞれの教科の特徴を生かした指導を日常的に展開しながら、本校生徒が海外8カ国の学校の生徒たちと交流し、生徒手作りのエコバッグを贈ったり、オンラインを介して動画による情報交換や意見交換を行ったりする活動を継続している。

【プログラムの内容】

- ・ 公民科・家庭科・英語科が教科横断的に生徒を指導しながら、海外8カ国の学校の生徒たちに本校生徒自作のエコバッグを贈る。
- ・ 生徒の英語によるコミュニケーション能力を伸ばすこと、もの作りの喜びを味わうこと、「SDGs」の目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」を実践する活動を体験することを目的とする。

【工夫した点】

- ・ 公民科・家庭科・英語科がそれぞれの授業を日常的に行いながら、各教科の得意な指導を本プログラムに生かしていくこと。

【今後の課題】

- ・ コロナ禍における単発的な取組に終わらず、パートナーシップを継続していくこと。
- ・ 生徒の主体性の向上、多様性への理解、英語を中心としたコミュニケーション能力の向上に寄与する活動とすること。



【経緯】

2020（令和2）10月	「主権者教育」で連携し、教科横断型授業を実施していた家庭科と公民科が「SDGs」をテーマとした指導についての連携を校内で協議する。英語科も同時期に「SDGs」をテーマとした単元に入ることから、協議に加わる。
2020（令和2）11月	英語科が取り組んでいる「グローバルクラスルーム」を通じて各国に取組の趣旨を伝え、参加校を募集したところ、8カ国8人の教師と8クラスの生徒から提携の申し出があった。提携校の中には家庭科が情報科に置き換えられており、被服実習も行われていない学校があることを知る。
2020（令和2）12月	公民科で、「SDGs」の目標12「つくる責任 つかう責任」・13「気候変動に具体的な対策を」をテーマとした学習を行う。家庭科の被服実習でエコバッグを制作し、同時に、提携国の衣食住についても理解を深める活動を始める。
2021（令和3） 1月～2月	英語科では、Webサービスの一つであるFlipgridを介して、動画による情報交換や意見交換を行い、パートナーシップを継続する。本校生徒手作りのエコバッグを、提携校の生徒へ発送する。

他機関との連携による取組み【滋賀県立彦根東高等学校】

本校では、一般社団法人近江ツーリズムボード（観光庁登録DMO）と協働し、海外の高校との文化・学術交流を充実させている。スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業の取組の一環として実施した研修において、1・2年生32名が参加し、インドの海外連携校である The Shri Ram School (TSRS)と、ZOOMによりWeb交流会に取り組んだ。

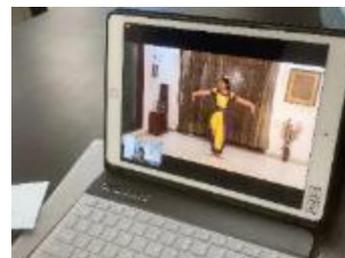
第1回は、TSRSがMCを担当し、両校の校長先生によるご挨拶、TSRSによるヒンドゥー教のお祈りと楽器演奏、インドの伝統的なダンス発表、参加生徒の簡単な自己紹介などを行い、文化交流や高校生同士の親睦を深める良い機会となった。

【工夫した点】

- ・本校の生徒一人に対して、相手校のバディを一人割り当て、生徒同士が事前にE-mailで交流が行えるようにした。また、その際、自己紹介プロフィールを交換しており、ZOOMによる交流会がよりスムーズに行えた。
- ・Web交流は、月一回のペースを基本とし、それぞれの学校が交互にMCを担当することにしてある。それぞれの学校がしっかりと企画を考え、長続きする取組になるよう配慮している。

【今後の課題】

- ・英語による会話や文化交流を中心とするプレゼンテーションだけではなく、探究的な学習の成果発表会や、両校が協働して行うプロジェクト型学習（Project Based Learning）など、アカデミックな内容を交流する取組にもつなげたい。
- ・オーストラリアの海外交流校2校（Perth Modern School、Ashdale Secondary College）とは、Skypeによる交流も行っており、加えて米国やロシアの高校とのWeb交流も検討している。今後も、相手校のニーズやスタイルに合わせて、多様な国際交流の取組を展開したい。



【経緯】

2017年度（平成29年度）	文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール」第4期1年次、St. Mary's High School（米国）との連携を開始。
2018年度（平成30年度）	オーストラリアに新たな連携校を得て、定期的にSkype等による交流を行い、科学技術に係るディスカッション等を行った。
2019年度（令和元年度）	SSH事業において「環太平洋連携プログラム」を強化。Skype等による定常的な交流を実施。課題研究の深化を実現。
2020年度（令和2年度）	一般社団法人近江ツーリズムボードとの協働を開始。The Shri Ram School（インド）とのWeb交流の構想を進める。

海外の高校との連携による取組み 【京都府立北稜高等学校】

英語コースの授業において、例年実施しているタイの留学生との交流が中止となり、それに関わる取組みもなくなったため、その代替として、本校AETの紹介で、アメリカの高校において日本語を履修している生徒とのビデオメッセージ交換を行った。昨年まではカードの交換を行っていたが、今回はFlipgridというアプリを使用し、ペアを決めて全員がビデオを撮りそれを送りあうという形で行った。両校とも、自分の母語と、学習中の言語の二つを用いた撮影に挑戦し、リスニング力とスピーキング力の伸長に努めた。また、各生徒の趣味や、日本文化やアメリカ文化について、意見交換を重ねた。

【プログラムの内容】

◎ビデオ1撮影（70-100語、1-2分）：英語を使用

1. 自己紹介（部活動・趣味・興味のあるもの・特技・その他シェアしたいことなど）
2. アメリカの文化や学校生活について、聞きたいことをOpen Ended Question で2つ質問する。

◎相手からの返信ビデオ1：日本語を使用

アメリカの高校生の日本語を聞き、ペアについて知る。自分の質問に対する答えを聞き取る。ペアからの質問を聞き取る。

◎ビデオ2撮影（300字、1-2分）：日本語を使用

1. ペアからの質問に答え、自分について話す。
2. 相手が日本語学習初心者であることを踏まえ、口元の動きを大きめに、わかりやすくゆっくりと話す。

◎相手からの返信ビデオ2：英語を使用

アメリカの高校生が日常で使用する自然な英語の理解に努める。同世代のアメリカ文化について理解を深める。

【工夫した点】

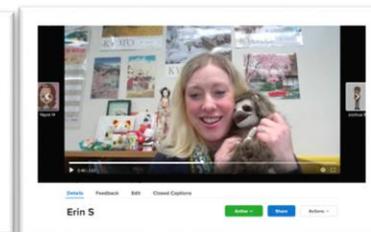
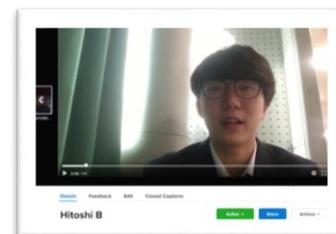
- ・1対1の形で、全員が、両方の言語の聞き取りと発話の機会を等しく持てるようにした。
- ・できるだけ雑音が入らないように距離を取り、わかりやすい録画を作るよう指導した。
- ・相手校と良好な関係が築けたため、数年後の本校での交流も期待できる。

【今後の課題】

- ・今後も続けていきたいが、AETが変更になった場合の継続の仕方
- ・授業終了後の、当該アプリ以外での生徒同士の交流の継続方法

【経緯】

2016(平成28)年	タイの留学生との学校交流が始まる
2020(令和2)年8月	例年10月の本校訪問が、新型コロナウイルスの影響により中止となる
同年9月	2学期の授業内容の代替案を作成、アメリカの高校生とアプリFlipgridでのオンラインビデオ交換を決定
同年10月～2021(令和3)年1月	ビデオ1作成・送付⇒返信ビデオ1を受受・鑑賞⇒ビデオ2作成・送付⇒返信ビデオ2を受受・鑑賞



海外の高校との連携による取り組み 【大阪府 追手門学院大手前中・高等学校】

コロナ禍においても、海外文化を感じられる機会を提供するべく、かねてより教員同士の交流があったオーストラリア・ブリスベンのホーランドパーク高校、同じくオーストラリア・タスマニアのハッチンズスクールの2つの高校との交流を実施。ホーランドパーク高校との交流では、希望者を募り、SDGsに関して各国が向き合っている課題や、達成度の違いについての共有を行った。ハッチンズスクールとの交流では、授業時間内に実施し、クラス全体で学校紹介や地元・大阪の紹介を行う。

【工夫した点】

- ・一方通行ではなく、双方が何かを得られる交流になるように、本校は英語を、相手校は日本語を学べるような時間設定をした。
- ・時差が大きすぎると、交流の継続が難しくなるため、出来る限り時差が近い国との交流を試みた。

【今後の課題】

- ・日本とオーストラリアでは、年度が合わないため、予定を組むのが難しい点



【経緯】

2020年7月	ホーランドパーク高校と連絡を取り始める。実施に向けて準備。
2020年8月	第1回目オンライン国際交流を複数回実施
2020年12月	ハッチンズスクールと連絡を取り始める。実施に向けて準備。
2021年2月	第2回目オンライン国際交流を開始予定

海外の学校との交流としての取組み 【愛媛県立松山東高等学校】

修学旅行「シンガポール・マレーシア」班は、グループに分かれて、シンガポールにある三つの高等学校を訪問し、交流を行っている。帰国後も、SGH部の活動の一環として、交流を継続している。そのうち、同国有数の進学校であるVictoria Junior College(VJC)とは、月に一度の頻度で、ディベート&ディスカッションを行っている。事前にテーマを決め、両校での調査や議論を踏まえて、当日、意見を述べたり、相手の意見に反論したりすることで、親睦を深めている。また、ビデオレターを作成して送る活動を続けている。

【プログラムの内容】

- ・ディベートのテーマは「動物実験は禁止すべきだ」「携帯電話の学校への持ち込みは禁止すべきだ」「厳しい先生より優しい先生のほうが良い」など、政策論題から価値論題まで多岐に渡るようにしている。

【工夫した点】

- ・リサーチをする中で、文化比較をしたり、意見を聞く中で、価値観の違いに気づいたり、単なるおしゃべりでの交流より、得るものが深く濃いものとなっている。

【今後の課題】

- ・学校行事や考査などで、相手校と日程を合わせるのがとても難しい。また、VJCは進学校で、11月以降は大学受験に集中するため、交流はできない。継続した活動にするためには、一層の工夫が必要である。



【経緯】

2018（平成30）年5月	シンガポール・マレーシアコースの修学旅行を開始。各学校に第1回目の訪問。
2018（平成30）年8月	ディベート&ディスカッション開始。
2020（令和2）年5月	3回目となるシンガポール・マレーシアコースの修学旅行は中止。

他機関との連携による取組み【愛媛県立宇和島南中等教育学校】

アメリカ合衆国ノースカロライナ州の高校で、日本語を学ぶ生徒との交流活動を実施。2017（平成29）年から継続的に、様々な形式での活動を行ってきたが、世界的な規模でのリモート活動の広がりにより、本年度は特にその流れを加速させることができた。お互いのプレゼンテーションの様子を撮影した動画の交換や、ビデオチャットツールを用いたリアルタイムでのコミュニケーション活動を複数回に渡って行った。

【プログラムの内容】

- ・ビデオチャットツールを用いた、日本語と英語での交流活動を実施した。
- ・地域の史跡を日本語と英語で紹介した動画を作成し、宇和島市に提供した。
- ・また、その動画をビデオチャット上で共有し、ノースカロライナ州のチャペルヒル高校・イーストチャペルヒル高校での日本語の授業で使用していただいた。
- ・生徒が地域の史跡を訪問し、その現場からインターネットに接続し、疑似的な観光案内を試みた。



動画を作成している様子

【工夫した点】

- ・Breakout room機能などを活用し、参加者が個々に発話できる機会を持てるよう配慮した。
- ・国際交流活動と地域貢献活動を関連付けるよう配慮した。
- ・宇和島市やノースカロライナ州の先生方と連携し、助言を得た。

【今後の課題】

- ・ノースカロライナ州での日本文化紹介イベントへの参加を含め、活動を更に発展させつつ、校内における教育活動として明確に位置付ける。



地域の史跡をビデオチャットで紹介している様子

【経緯】

2016（平成28）年	ノースカロライナ州の高校生と文通での交流活動を開始。
2017（平成29）年	インターネットを介した動画交換での交流活動を開始。
2020（令和2）年	新型コロナウイルス感染症の影響により、世界的にリモート活動が広がる中、オンラインでのリアルタイム交流活動について検討。
2021（令和3）年	オンライン交流活動・地域づくり活動の実施。

本校語学留学先の学校との連携による取組み【福岡県 福岡工業大学附属城東高等学校】

本校主催のニュージーランドで行っている語学留学(3カ月～11カ月)および語学研修(2週間)が新型コロナウイルスの影響で中止となりました。そこで、語学研修で毎年お世話になっている現地校の国際交流担当の職員と連絡を取り、オンライン交流会が実現しました。本校は語学研修に行く予定だった生徒を対象に、ニュージーランドは英語を第2言語として学んでいる世界各国の留学生を対象に交流を行いました。本校は正課の授業が始まる前の朝の時間に、現地校は英語の授業の時間にzoomで繋いで交流を行いました。

【プログラムの内容】

互いの国で3人1組のグループになり、自分自身や学校、自国文化の紹介を行う。また、話を聞いて、その内容に関する質問をしたり、フリートークをしたりする。日本文化に興味深い現地校の生徒に向けて、日本文化を英語で紙面にまとめたものや、日本らしい物を現地に送る。

【工夫した点】

グループをすることにより、英語の習熟度やコミュニケーション能力の差を補った。

【今後の課題】

時差があるため、正課の授業に影響が出ないように行うには時間が限られていること。生徒によっては1対1での交流を望む声もあったこと。最終目標の設定が曖昧であったこと。



【経緯】

2020/6	現地と連絡を取り、オンライン交流会を提案する。
2020/7/17および21	事前研修。現地より送られてきた自己紹介動画を見ながら、質問などを考える。
2020/7/28	第1回交流会
2020/10/22	第2回交流会 ※第1回同様事前研修有り。

海外の高校との連携による取組み 【福岡県 福岡工業大学附属城東高等学校】

本校教職員が関わりを持っている香港の高校と連絡を取り、現地校の生徒と本校生徒の英語による交流会が実現しました。学んだことを英語でプレゼンテーションすることを最終目標に、全5回の交流会を計画しています。本校全生徒より希望を募り、現地校の生徒(日本文化クラブ所属)とペア同士で交流をしています。現地校の生徒は英語を流暢に操り、プレゼンテーションの能力も高いので、良い刺激をもらっています。Zoomのブレイクアウトルームを活用して交流をしています。初回と最終回で英語のスピーキングの様子の動画を撮影し、生徒の英語やコミュニケーション能力への変化を見る予定です。

【プログラムの内容】

各回のテーマに沿って、生徒は互いに事前にスピーチやプレゼンテーションなどを準備し、交流会当日発表をする。互いの発表を聞いた後に、質疑応答を行い、その後はフリートークの時間を10分程度設ける。最終回には相手校の生徒の発表により学んだことを、互いにプレゼンテーションを行う。

【工夫した点】

zoomのブレイクアウトルームを活用して、交流する相手を3回変えることで同じスピーチやプレゼンテーションを3回ずつ行うようにした。このことにより、前のセッションでの課題や反省を活かして、次のセッションでブラッシュアップできるようになっており、生徒は「できなかった」より「できるようになった」という感覚を持って各会を終えることができる。

【今後の課題】

回を重ねるごとに成長はしているが、現地校との英語力の差を埋める手段を講じる。



【経緯】

2020/10/30	現地校の先生と交流会に向けて最終目標や、目標達成の手段、交流期間などのすり合わせ
2020/12/7	本校生徒に向けて説明会を実施
2020/12~2021/1	事前研修を3回実施
2021/1~3	香港とのオンライン交流会 ※現在も進行中

Diversity (多様性) の学び 【熊本県 菊池女子高等学校】

熊本県菊池市から、アメリカ、ドイツ、インド、ジョージア(グルジア)などの中高生とオンラインを通して、それぞれの国の文化や言語について英語でプレゼンテーションを実施した。違う価値観や習慣をもつ生徒たちと出会い、他者と協力して生きることを学ぶ **Diversity (多様性)** の学びが本校のグローバルクラスルームで着実に実現している。

【プログラムの内容】

- ・オンラインを通してグローバルなクラスメートをつくる。
- ・地域の外国人の方と国際交流をはかる。
- ・AIアプリで英語力を磨く。

【工夫した点】

- ・オンラインを媒体としているが、できるだけ現地の中高生と親密な関係を築くために、文通やプレゼント交換をして温かみのある交流を図った。
- ・「English Day」を定期的に位置づけ、英語で話すことを奨励した。

【今後の課題】

- ・コロナ禍でできなかった国内での異文化交流会や研修を開催したい。
- ・地域に住む外国人の方に日本語を教えたい。

【経緯】



2020(令和2)年6月	アメリカのLovington High Schoolからビデオレターをもらい、オンラインで定期的な交流を開始する。
2020(令和2)年10月	ドイツのRealschule Sundernとオンラインで交流が始まる。Lovington High Schoolにハロウィーンカードや、菊池市の観光名所カードなどを送る。
2020(令和2)年12月	アメリカのLovington High SchoolやドイツのRealschule Sundernからキャンデーなどのプレゼントをいただき、こちらからクリスマスカードや煎餅などを送る。
2020(令和2)年12月	アメリカのWindward Nazarene Academy中学生とオンラインで交流が始まる。
2021(令和3)年1月	ジョージアのLEPL Borjomi Municipality Akhaldaba Public Schoolとの交流が始まる。

他機関との連携による取組み【沖縄県立那覇商業高等学校】

本校国際経済科の学科行事である「海外研修旅行（ハワイ）」が中止になった。（対象学年：2 学年38名）その代替行事として、ハローワールド株式会社の協力の下、ハワイにある「Iolani School」とzoom交流会を実施した。本校生徒 1・2 学年79名と Iolani School生徒20名がzoomを活用した交流会に参加した。

【プログラムの内容】

- ・生徒代表 2 名によるアイスブレイク（那覇商業高校 → 交流生徒全員向けクイズ）
- ・交流相手パートナーを決定後、相互のプレゼンテーションとフリートーク（15分×2回）
2 回目はパートナーチェンジ
- ・企業運営によるリフレクション

【工夫した点】

- ・自分のことや住んでいる地域のことをクイズ形式にし、お互いの距離が少し縮まった後、フリートークの機会を設けた。
- ・商業高校で学習した「PowerPoint」を活用しクイズを制作した。
- ・事前に企業がzoom接続の確認を実施し、通信速度の問題が発覚。教室を3 教室に分散することで解消することができた。
- ・事前に本校職員と「Iolani School」の職員で顔合わせを実施した。（zoom）

【今後の課題】

- ・学校のパソコンにカメラとマイクが設置されていないため、iPadを活用した。クイズをPowerPointで制作したが、iPadでの投影が厳しく、印刷し、紙媒体でクイズを出題した。
- ・通信環境の問題。
- ・継続的に交流会を実施することで、zoom交流会の内容を更に充実させたい。（プレゼン大会の実施など）語学力の向上にもつなげたい。

【経緯】

1996(平成8)年3月	国際経済科 海外研修旅行スタート（平成6年入学生より）（今までの渡航地域：ハワイ、ロサンゼルスなど）
2020(令和2)年2月	国際経済科 ハローワールド株式会社による講話実施 講師：代表 野中 光 様
2021(令和3)年1月	3月の海外研修旅行がコロナウイルス感染症の影響により中止 企業にzoom交流会の提案
2021(令和3)年2月	ハローワールド株式会社の協力の下、zoom交流会実施

